

廃安定器におけるアスファルト充填材と樹脂充填材について

1. アスファルト充填材と樹脂充填材との製造台数割合

安定器の充填材については、当初アスファルトが使用されていたが、その後樹脂への使用に切り替えが行われている。

東京PCB廃棄物処理施設の発注に向けて、平成14年に業界団体にヒアリングを行った結果を踏まえ、PCB使用安定器におけるアスファルト充填材と樹脂充填材との生産台数割合は5対95と見積もった。

しかし、実際に東京PCB廃棄物処理施設で廃安定器の処理を開始すると、搬入されるものは樹脂充填型よりもはるかにアスファルト充填型の方が多いという状況であった。

このため、主要な安定器メーカーへのヒアリング又は保管事業場での現物確認によりアスファルト製から樹脂製への切替年を調査したところ、次のとおりであった。

【樹脂製への切替等が判明しているメーカー】

メーカー	切替年	特記事項
松下	1965年	平成17年9月JESCOによるメーカー聴取結果
星和電機	1965年	
三菱電機	1967年	
日立	1969年	
昭電社	1980年	
東芝	1972年まではアスファルト製が	A保管事業場及びB保管事業場におけるJESCO現物調査結果(平成18年12月)より 平成18年1月JESCOによる安定器容器内の充填材に関するメーカーヒアリングより
愛知電機	ほとんど	
NECライティング		

その上で、平成13年度特措法届出データ(届出様式には「廃棄物の型式等」に関して「製造者名」、「製造番号」、「製造年月」、「容量等」を記載する欄あり)を元にメーカー判明の有無又は製造年判明の有無により分類し、アスファルト製又は樹脂製の台数を実数集計又は按分集計したところ、アスファルト充填材と樹脂充填材との特措法データ上の台数割合は66対34という傾向が判明したもの。

※1: 安定器データ167万台のうち、実数集計したメーカー判明・製造年判明分(約46万台・27%)をベースに、メーカー判明・製造年不明分(約62万台・37%)、メーカー不明・製造年判明分(約12万台・7%)、メーカー不明・製造年不明分(約48万台・29%)を按分集計した。

ほとんどが樹脂充填型であるとする業界団体からの回答は、樹脂充填材に切替が行われた後の近年の状況を反映したものであったと思われる。

2. アスファルト充填型と樹脂充填型との分別方法の精度

アスファルト充填型と樹脂充填型との分別の状況は次のとおりであり、確実な分別は極めて困難であると思われる。

- ① 廃安定器の本体ケースが舟形のものにはアスファルト充填型が一般であり、筒型ものは樹脂充填型が多いが、舟形でも樹脂充填型のもの、筒型でもアスファルト充填型のものもある。
- ② 型式と製造年をメーカーに問い合わせても、どちらを充填したものか分かるとは限らない。切替年に製造したものは型式が同じでも充填材が違う可能性さえある。
- ③ また、そもそも、現在存在していないメーカーの場合には問い合わせ自体が不可能である場合や、型式や製造年が廃安定器から確認できない場合（※2）もある。
※2：紙ラベルの場合には擦れ、切れ、剥がれ、変色、落書き等、印刷の場合には擦れ、錆び、落書き等による。
- ④ なお、廃安定器を叩くと高い音がするのが樹脂、同じ大きさでも重い方が樹脂であることから、どちらを充填したものか分からない場合は、感覚を頼りにある程度分別可能と思われるが、確実な手法とは言えない。

以 上